

富山方言の原因・理由表現

小西 いずみ

1. 本稿の目的と方法

本稿では、富山方言の原因・理由表現について、面接質問調査の結果をふまえて中間的な報告を行う。調査は、県内の文化・行政上の主要地である富山市街地・高岡市街地にて行った。インフォーマントや調査期間について、以下に記す。

富山市 1922（大正 11）年生まれ。男性。生育地は富山市北新町^{きたしんまち}，調査時住所は富山市東田地方町^{ひがしでんちがたまち}（生育地の隣町）。富山市以外での居住歴は約 4 年。調査期間は 2002～2006 年。

高岡市 1926（大正 15）年生まれ。男性。生育地・調査時住所とも高岡市川原本町^{かわらほんまち}。外住歴は戦時中の約 2 年。調査期間は 2002 年。

調査は、共通語文を翻訳してもらう方法を主とし、必要に応じて、その文・文脈において特定の形式の生起が可能かどうかの文法性判断を問うこともあわせて行った。調査項目は、前田ほか(2006)の調査項目案にほぼしたがっている。本稿は、その項目のうち「1. 「から」と「ので」の用法」を主に扱い、「3. 接続詞「だから」の用法」についても簡単に触れる。記述においても前田ほか(2006)の枠組みに沿って行う。高岡市の調査は概略的なものであり、以下の記述では富山市のほうに重点をおく（ただし富山市も前田ほか(2006)の全項目の調査を終えたわけではない）。

なお、筆者自身、富山市北部で言語形成期を過ごした富山方言話者である（1973 年生まれ，女性。0～18 歳，富山市田畑新町に居住）。以下の考察でも、筆者自身の内省をふまえることがある。

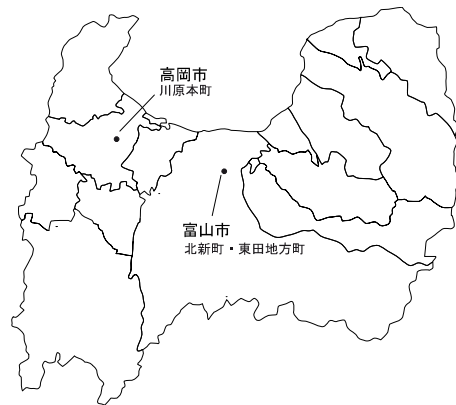


図1 調査地点図

2. 調査結果

2.1 原因・理由節をつくる形式のバリエーション

調査で得られた原因・理由を表わす基本的な形式（共通語の「から」や「ので」に対応して用いられる形式）を以下に記す。〈 〉内はインフォーマントの語形に対する意識，（ ）

内は回答でのおおまかな出現頻度である。

富山市 (α) サカイ<多, 方言として自然>, サカイニ<同左>, サカライニ(少),
ノッテ(少), デ<古>(稀), カラ<共通語的>

(β) カ° デ, カ° ンデ(稀), モンデ, モンダサカイ(稀),
モンダサカイニ(稀), モンダノッテ(稀), モンダデ(稀)

高岡市 (α) サカイ<多>, サカイニ<多>, サカライニ, カラ, ケデ<稀>, ケニ<稀>

(β) カ° デ, モンデ, モンヤサカイニ(稀)

上でαとしたのは、共通語の「から」とほぼ同様の用法を持つ形式、βは用法がより制限された形式である。ただし、共通語の「から」が可能な統語環境においてαの形式が用いられないこともある。これらの点については3.2節で詳しく述べる。

βのうち、カ° デ・カ° ンデは、語形成の上では共通語の「ので」に対応し、《準体助詞カ° ・カ° ン+助詞デ》と分析できる。モンデは《形式名詞モン+助詞デ》で共通語の「もので」に、また、モンダデ、モンヤサカイニ等は、《形式名詞モン+断定辞ダ・ヤ+「から」相当接続助詞(上記α)》という構成で、語形成上は共通語の「ものだから」に対応する。

上にあげた原因・理由の形式は、両地点とも、用言の終止連体形に後接する。名詞述語および形容動詞述語の場合、断定辞の形式は次のようであった。

α類 → 終止形ダ・ヤに後接

カ° (ン)デ → 連体形ナに後接

モンデ → 終止形ダ・ヤにも、連体形ナにも後接

《モン+断定辞+α類助詞》

→ 富山市：終止形ダ・ヤにも、連体形ナにも後接(後者のほうが優勢)

高岡市：連体形ナに後接

なお、断定辞に関しては、富山市のインフォーマントはダが優勢だが、ヤも用いる。高岡市のインフォーマントは、ほぼヤである。ダも稀に使うが、この原因・理由表現に関する調査項目の回答では現れなかった。

国立国語研究所編(1983)『方言文法全国地図』(GAJ)第1集第33図「雨が降っているから行くのはやめろ」、第36-37図「子供なのでわからなかった」における、富山市、および、高岡市に隣接する氷見市・福岡町(後者は現在、高岡市に属する)では、次のような形式が回答されている。富山市の36-37図は「ダモンダガラ」という回答となっているが、筆者がこの地域でこのような形式を耳にしたことはない。

	33「降っている <u>から</u> 」	36-37「子供 <u>なので</u> 」
富山市新庄町(5539.80)	カラ	ダモンダガラ
氷見市本町(5527.89)	サカイ	ヤモンジャカラ
福岡町福岡(5537.77)	サカイ	ヤケデ, ヤサカイ

また、筆者の別の調査で得られた富山県内における「から」相当助詞（上のα類）の分布を図2に示す。この図では、富山市市街地にデ、ノッテがないが、今回の調査でそれが新しく得られたことによって両形式の分布域が若干北東に広がったことになる。今回の富山市の調査地点がデの分布境界付近に位置することと、インフォーマントがデを古いものと意識していることとは、通時的に無関係ではなかろう。

以上からも分かるように、富山県内には、原因・理由の表現形式、特に「から」相当助詞のバリエーションが豊富である。この富山県の分布状況は、彦坂(2005)が行ったような、原因・理由の表現形式の言語地理学的研究にも寄与するものと思われる。機会を改めて考えてみたい。

なお、α類において、カラ以外の形式は急速に用いられなくなっている。例えば、富山市北部（浜黒崎で言語形成期を過ごし、現在は田畑新町に在住）の1945年生まれの男性も、筆者自身も、カラしか用いず、サカイニ・ケニなどの方言形式は理解語でしかない。今回の富山市調査のインフォーマントも、カラを「共通語的」と意識しながら、調査中の自発的な発話ではカラを頻用し、質問項目への第一答でカラが用いられることもあった。

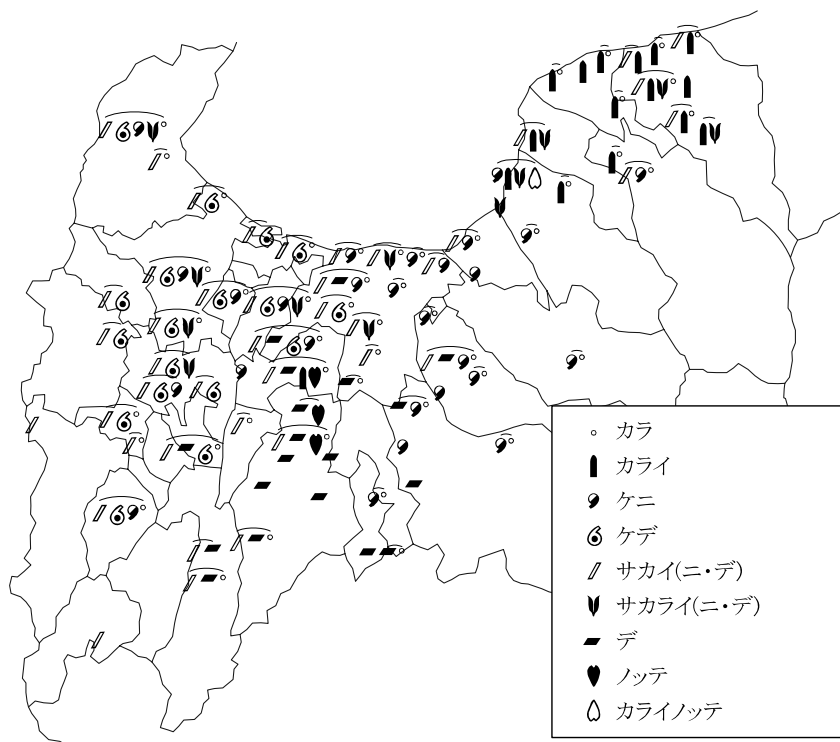


図2 富山県における「から」相当助詞の分布(小西 2004 より)

2.2 各形式の意味・用法

2.2.1 α類（サカイニなど）とβ類（カ° デ, モンデなど）との相違

次に各形式の意味・用法について記述する。α類については形式のバリエーションが多ことから、富山市・高岡市ともにインフォーマント自身が使用頻度が多いと内省するサカイニあるいはサカイを優先に、各項目における可否を確認した。β類についても使用頻度が相対的に高いカ° デとモンデの確認を優先した。

表1に調査結果の概略を示す。左欄の用法分類は、前田ほか(2006)によるものである^{注1}。

表1 富山市・高岡市における原因・理由表現形式の用法分布

	富山市				高岡市			
	サカイニ等	カ°(ン)デ	モンデ	モンダデ等	サカイニ等	カ°デ	モンデ	モンヤサカイニ
〈事態の原因〉	○	○	○	○	○	○	○	○
〈行為の理由〉後件が叙述表現	○	○	○	○	○	○	○	○
〈判断の根拠〉	○	△	△	△	○	×	×	×
〈行為の理由〉後件が意志・命令等, 〈発言・態度の根拠〉	○	△	△	△	○	△	△	△
〈理由を表さない用法〉	○	△	×	×	○	△	×	×
〈終助詞的用法〉	○	△	×	—	○	×	×	×

- 調査した項目全てで「可」と判断された(調査項目が1つの場合もある)
- △ 調査項目によって判断が異なったり, 同じ項目でも判断にゆれがあったりした
- ×
- 未調査

すでに3.1節でも触れたように、α類のサカイ(ニ)、サカライニ、ノッテ、デ、カラ、ケニ、ケデについては、〈事態の原因〉も〈判断の根拠〉も表すことができ、また、後件のモダリティ制限もない。共通語の「から」とほぼ同様の意味・用法を持つといえる。一方、β類のカ°(ン)デ、モンデ、モンダデ等は、〈判断の根拠〉を表す場合や、後件に意志・命令などのモダリティがくる場合(前田ほか(2006)の〈行為の理由〉の一部、〈発言・態度の根拠〉〈理由を表さない用法〉)で用いられにくい。この点で、先行研究において共通語の「ので」や「もので」「ものだから」の特徴・制限とされてきたものに共通する^{注2}。以下、例文をみながら、もう少し細かく検討する。

従属節が〈事態の原因〉を表す場合、および〈行為の理由〉を表し主節が叙述表現の場合は、サカイニ等α類の形式もカ°デ・モンデ等β類の形式も、用いられる。モンダデ・モンヤサカイニ等の《モン+断定辞+α類助詞》という構成の表現形式は、富山市においても高岡市においても自由回答で現れることは少なかったが、いわゆる語形の誘導(形式を調査者が提示してして使用の可否を問う)を行うと、可と判断される。(以下、【富】は富山市、【高】は高岡市のインフォーマントから得られた文である。)

- (1) マイニチ アメ フル {サカイニ/カ°デ/モンデ/モンダサカイ} センダクモンナ カ

ワカンナ。(毎日雨が降るから、洗濯物が乾かないよ)【富】

- (2) マイニチ アメ {ダサカイニ/ダノッテ/ダデ/ダカラ/ナカ° デ/ナモンデ/ダモンデ/ナモンダデ/ダモンダデ/ナモンダノッテ/ダモンダノッテ} センダクモンナ (ナーン) カワカンナ。(毎日雨だから、洗濯物が(ちっとも)乾かないよ)【富】
- (3) タイチョーカ° ワルイ {サカイニ/ノッテ/デ/カ° デ/モンデ/モンダサカイ} リョコーニア イカンカ° ニシタ。(体調が悪いから旅行には行かないことにした)【富】
- (4) ココワ ウミニ チカイ {サカイニ/サカライニ/カ° デ/モンデ/モンヤサカイニ} カゼカ° ツヨイ。(ここは海に近いから風が強い)【高】

〈判断の根拠〉を表す場合、カ° デ、モンデ、《モン+断定辞+α類助詞》は、許容されにくくなる。富山市では、項目によって判断が異なったり、同じ項目でも判断がゆれたりするが、サカイニ等が判断のゆれなく可とされるのとは明らかに異なる。

- (5) ホシカ° デトル {サカイニ/ノッテ/カラ/?カ° デ/?モンデ} アシタモ イーテンキダロワイニ。(星が出ているから、明日もいい天気だろうよ)【富】
- (6) ヤマダサン カオイロ ワルイ {サカイニ/ノッテ/カ° デ/モンデ} ドッカ ワルイカ° カモシレンナ。(山田さん、顔色が悪いからどこか悪いのかもしれないよ)【富】

高岡市については次の文でしか確認していないが、β類は不可とされた。

- (7) ホシカ° デトル {サカイニ/×カ° デ/×モンデ/×モンヤサカイニ} , アシタモ イーテンキニナルヤロー。(星が出ているから、明日もいい天気だろうよ)【高】

後件に意志表現や行為要求表現が来て、〈行為の理由〉や〈発言・態度の根拠〉を表す場合も、富山市のインフォーマントにおいては、カ° デ・モンデ等の許容度が落ちる。この場合も、質問項目によって差があったり、同じ項目でも判断のゆれがあったりする。

- (8) タイチョーカ° ワルイ {サカイ/ノッテ/デ/?カ° デ/?モンデ/×モンダノッテ} キョーワ シコ° ト ヤスモー。(体調が悪いから今日は仕事を休もう)〈意志〉【富】
- (9) ヨミチァ クライ {サカイニ/ノッテ/デ/×カ° デ/モンデ/×モンダノッテ/×モンダデ} イッショニ カエランマイ {ケ/カ}。(夜道は暗いから一緒に帰ろう)〈勧誘〉【富】
- (10) アブナイ {サカイニ/ノッテ/デ/カ° デ/?モンデ/×モンダノッテ} コノカワデア ソブナ。(危ないからこの川で遊ぶな)〈禁止〉【富】

後件が行為要求表現の場合、動詞命令形による命令表現より依頼表現のほうが許容されやすくなる。この点も、共通語の「ので」「もので」「ものだから」と似る。

- (11) アカンボーア ネットル {サカイニ/ノッテ/×カ° デ/×モンデ/×モンダノッテ/×モンダサカイ} , シズカニセーマ。(赤ん坊が寝ているから静かにしろよ)【富】
- (12) アカンボーア ネットル {サカイニ/ノッテ/カ° デ/モンデ/?モンダノッテ/?モンダサカイ} , チョット シズカニ {シテヤッテ/シテッタハレ}。(赤ん坊が寝ているから、ちょっと静かにしてやって/してください)【富】

高岡市では、後件が意志表現・命令表現の文のみ確認した。意志表現のほうがβ類が許

容されやすい。

- (13) スコシ ネット アル {サカイニ/カ° デ/モンデ/モンヤサカイニ} フロエ ハイラン トコー。(少し熱があるから、風呂に入らないでおこう) 【高】
- (14) アメ フットル {サカイニ/サカライニ/×カ° デ/×モンデ} イクカ° ヤメラレ。(雨が降っているから、行くのをやめる) 【高】
- 〈理由を表さない用法〉の場合も、β類は許容されにくい。
- (15) スク° モドッテクル {サカイニ/ノッテ/デ/カラ/カ° デ/×モンデ/×モンダデ} ココデ マットッテクレ。(すぐ戻ってくるから、ここで待っていてくれ) 【富】
- (16) スク° モドッテクル {サカイニ/カ° デ/×モンデ/×モンヤサカイニ} マットッテ クダハレ。(すぐ戻ってくるから、待っていて下さい) 【高】
- (17) ツクエノ ウエニ オイテアル {サカイニ/×カ° デ/×モンデ} トッテキテクレン ケ。(机の上に置いてあるから、とってきてくれ) 【富】
- (18) オネカ° イ {ヤサカイニ/×ナカ° デ/×ヤモンデ/×ナモンヤサカイニ} スコシ マ ットッテクダハレ。(お願いだから少し待っていて下さい) 【高】

(15)(16)と(17)(18)とでカ° デの許容度に差がある。(15)(16)のように前件が「後件実行を可能にするための必要条件」とみなしやすいものは許容しやすく、(17)のように後件だけでは不足の情報を補うものや、(18)のように実現を強く望む話し手の伝達態度を表す慣用表現の場合は許容しにくいのだと考えられる(前田 2000, 前田ほか 2006)。

〈理由を表さない用法〉からさらに派生したものとして、次のような終助詞的なものもある。この場合も、やはりカ° デ、モンデは許容されない。

- (19) アトデ マタ デンワスル {サカイ/ノッテ/?カ° デ/×モンデ}。(後でまた電話するから。) 【富】
- (20) アトデ モーイッペン デンワスル {サカイニ/×カ° デ/×モンデ}。(後でもう一度電話するから。) 【高】

以上見てきたように、ここでβ類としたカ° (ン)デ、モンデ、《モン+断定辞+α類助詞》は、語形成において対応する共通語の「ので」「もので」「ものだから」と同様の制限を持つと言える。ただし、共通語の原因・理由表現において「もので」「ものだから」が周辺的な形式と位置づけられてきたのに対し、富山方言のモンデや《モン+断定辞+α類助詞》は翻訳式質問の回答で出現することから、使用頻度や用法の範囲において共通語の「ので」に近いのではないかと思われる。今後、談話資料の用例調査などによって確認する必要がある^{注3}。

また、GAJの第36-37図「子供なのでわからなかった」や彦坂(2005, 2006)によるその略図を参照すると、富山県を含む中部地方にモンデや《モン+断定辞+α類助詞》が比較的まとまって分布する。彦坂は、中部地方に準体助詞を介さない表現(行くニ便利だ、など)があることから、モンデや《モン+断定辞+α類助詞》は準体助詞をモンで代替した

ものと解釈している。確かに岐阜・愛知など準体助詞を欠く方言の場合その可能性は高いと思われるが、富山方言の場合は、もともと準体助詞カ° をもっており、モンデ等とともにカ° デも使われることをどう考えるべきかという問題が残る。また、共通語の「のだから」は後件に聞き手に対する行為要求をとるなど「ので」とは大きく異なる用法を持つこと（岩崎 1996, 前田ほか 2006）を考慮すると、《モン+断定辞+α類助詞》を単純に準体助詞がモンで代替されたものとするわけにもいかず、なぜこれが「ので」に類した用法を持つに至ったのかを別に検討しなくてはならない。

2.2.2 サカイニ類が用いられる統語環境の制限

富山市・高岡市方言のサカイニ類が共通語の「から」とは異なる点もある。まず、原因・理由節が述語に位置し、文の焦点となる場合「XのはYからだ」文で用いにくいことが指摘できる。これは共通語と同形のカラでは可能だが、方言形のサカイ（ニ）では不可あるいは不自然とされる。ただし富山市のノッテ、デについては未確認である。

(21) アタマ イタイカ° チャ ヨンベ サケオ ノミスキ° タ {?サカイ/カラ/×カ° デ/×モンデ} ダ。(頭が痛いのは、タベ酒を飲みすぎたからだ) 【富】

(22) ?アタマ イタイカ° ワ ユーベ ノミスキ° タサカイニヤ。(同上) 【高】

(23) アタマ イタイカ° チャ ヨンベ サケオ ノミスキ° タ {?サカイ/カラ} カナー。(頭が痛いのは、タベ酒を飲みすぎたからかなあ) 【富】

「XのはYからだ」文での可否は、共通語の「から」と「ので」との相違点の一つとされてきたものである（例 20 に示したように富山市でもカ° デ、モンデは不可とされる）。サカイ（ニ）がこの用法を欠くということは、サカイ（ニ）の意味の問題、あるいは原因・理由の接続助詞としての発達の度合いの問題と考えるべきであろうか。

もう一つは、共通語の推量表現に後接しにくいというものである。

(24) a. アメ フロー {×サカイ/×ノッテ/×デ/×カラ} カサ モツテケ。

b. アメ フルダロー {?サカイ/×ノッテ/カラ} カサ モツテケ。

(雨が降るだろうから傘を持っていけ) 【富】

(25) コノブンダト アメダロー {×サカイ/×ノッテ/×デ/×カラ} エンソクワ チューシニナローワイ。【富】

(26) アシタニワ アメモ ヤムヤロー {×サカライニ/カラ} ウンドーカイワ カイサイデキソーヤ。(運動会は予定通り開催できそうだ) 【高】

富山県内では、動詞の推量表現として、意志表現と未分化な、語幹に接辞 oo（一段動詞の場合は joo, 富山市では roo のことも）が付いた形が用いられていたが、最近では《終止連体形+ダロー・ヤロー》が用いられるようになってきている。GAJ 第3集第 112-114 図（国立国語研究所 1994）などから、県西部のほうがその移行の進行が早いことがうかがえるが、上のインフォーマント間の違いもその傾向に合致する。両地点をあわせてみると、

《語幹-oo》よりも《終止連体形+ダロー・ヤロー》という分析的な形のほうが原因・理由の接続助詞を後接させやすく、また、なかでも共通語形カラが許容されやすいと言える。筆者は、 α 類としてはカラしか用いないが、やはり上の富山市の話者と同じように「降ローカラ」よりも「降ルヤローカラ」のほうが許容しやすい。これは、原因・理由表現の統語的振る舞いだけでなく、推量表現の生起環境に関わる問題でもある。

2.3 原因・理由の接続詞

接続詞に関しては、富山市でのみ、前田ほか(2006)の項目を用いた質問調査を行なった。いまだデータが不十分であるが、現時点で得られたことを報告しておく。

調査で得られた形式は、次のとおりである。〈〉内は語形に対するインフォーマントのコメント、（）内は回答された頻度である。

ソヤサカイ〈多・方言として自然〉、ンダサカイ(稀)、ンダデ、ダデ、ダカラ

最初の三つが、ソ系指示詞（あるいはその名残の「ン」）を最前部に含むもの、後の二つがソ系指示詞を含まないものである。なお、GAJ第34・35図「だから、するなど言ったじゃないか」によると、富山市では「ホンダカラ」が回答されている。

先にみた原因・理由節をつくる形式の豊富さに比して、接続詞の構成要素となりうる形式は限られており、構成素同士の結びつきかたにも偏りがあると言える。

まず、 β 類のカ°デ、モンデ、《モン+断定辞+ α 類助詞》を構成素とする接続詞は得られなかった。ソーナカ°デ、ソナカ°デ、ソヤモンデ、ソレダモンデなど《ソ系指示詞+断定辞+カ°デ・モンデ》という構成の形式を提示して使用を確認してみたが、用いないとのことであった。

また、 α 類の助詞でノッテ、サカイニ、サカライニを構成素に含む形式が得られていない。特に、接続助詞としてはサカイとサカイニがインフォーマントの意識の上であまり区別されず、どちらかといえば後者のほうが多く出現する傾向があったが、接続詞としてはソヤサカイばかりでソヤサカイニが現れなかったのが興味深い。ただし、これは直接語形を提示して使用の有無を問うておらず、今後確認を要する。

断定辞で始まる接続詞の場合、その断定辞がヤではなくダになるという点も指摘できる（ヤサカイを用いないということはインフォーマントに確認済）。GAJ第34・35図によると、断定辞ヤで始まる接続詞は、琉球方言以外に見られないようである。また、指示詞ソに後接するとき、ダよりもヤが選択されやすいというのは、富山市周辺に一般に見られる傾向である（小西1999）。

ソヤサカイは、接続助詞サカイの意味・用法の範囲に準じ、〈事態の原因〉〈判断の根拠〉のほか、〈理由を表わさない用法〉にあたる場合も用いる。

(27) サイキンワ マイニチ ヨー アメカ° フル。ソヤサカイ ナーン センダクモンナ
カワカンカ° ダチャ。（最近は毎日よく雨がふる。だからちっとも洗濯物が乾かないのだよ）

(28) スク° モドッテクッチャ。ソヤサカイ ココデ マットッテクレ。(すぐ戻ってくるよ。だからここで待っていてくれ)

相手の発話や眼前の状況を受け、それを根拠とした帰結を述べる場合も、ソヤサカイが用いられる。しかし、ンダデ、ダデや共通語と同形のダカラのほうが現れやすいという傾向がある(質問の第一答ではンダデ、ダデやダカラが現れ、ソヤサカイは誘導によって使用の可否を確認すると「可」と回答される、といった具合である)。

(29) (「事故で電車が遅れているそうだよ」と言われて) ハーン、{ソヤサカイ/ンダデ} ミンナ マダ キトランカ° ダネ。(はあん、だから皆まだ来ていないだね)

(30) (外出先で混在しているのにうんざりして) {ソヤサカイ/ンダデ} レンキューニ デカケルカ° イヤナカ° ダチャ。(だから連休に出かけるのは嫌なんだよ)

(31) (相手に予め注意したのに、その注意を守らないで間違いをおこしたので) {ソヤサカイ/ンダサカイ/ダデ/ダカラ} ヤメトカレ ユートツタカ° ニ。(だからやめておけと言っていたのに)

次のような、相手の発話を受けて結論を促す場合、ソヤサカイは不可とされた。共通語のダカラは、末尾に上昇イントネーションを伴って単独で結論を促す用法があるが、この場合はダデも不可とされた。

(32) A: 「大変だ。雨が降ってきた」

B: (雨が降るぐらいでどうして大変なのか理解できず)

- a. {×ソヤサカイ/ダデ/ダカラ} ドーダッテ ユーカ°。(だからどうだって言うの)
- b. {×ソヤサカイ/×ダデ/ダカラ} ↑ (だから?)

次のように、共通語「だから」の持つ非接続詞的な用法については、ソヤサカイ、ダデも可能とされた。小西(2000)は、関西方言の接続詞ソヤサカイ等にはこのような用法を持たなかったとしたが、今回の調査結果は、この点の再検討をせまるものである。

(33) A: 今日ちょうど田中さんに会ったよ。

B: どの田中さん?

A: {ソヤサカイ/ダデ/ダカラ} キノー ハナシトツタ タナカサンヤゼ。
(だから、昨日話していた田中さんだよ)

3. 今後の課題

以上、富山市・高岡市で行った原因・理由表現に関する調査結果を報告してきたが、調査がまだ不十分で、いくつかの興味深い現象について指摘するにとどまっている。特に、

- 原因・理由節におけるモンデ、《モン+断定辞+「から」相当助詞》と、共通語の「もので」「ものだから」との間に、意味・用法あるいは使用頻度上の差異があるのか。
- 「XのはYからだ」文においてサカイ二等の方言形式が使われにくいのはなぜか。
- 推量表現にサカイ二等の方言形式が後接しにくいのはなぜか。

・ 接続詞の形式と意味・用法の範囲

については、今後、さらに面接調査を行なうとともに、方言談話資料の用例調査なども行い、考察を深めたい。

注1 前田ほか(2006)は〈行為の理由〉と〈発言・態度の根拠〉とを分けているが、前者で後件が叙述表現以外の場合と後者とを明確に区別することが難しいと考え、ここではその二つを一緒に扱った。

注2 「から」と「ので」については永野(1970)のほか、前田ほか(2006)があげる文献を参照。「から」と「ので」に意味論上の質的な差異を認める立場と認めない立場があるが、ここでは、「から」と「ので」には、少なくとも後件が行為要求表現の場合や終助詞的用法において量的な相違があるとみておく。「もので」「ものだから」については、三尾(1942)、佐竹(1984)などを参照。

注3 山田(2002)は岐阜県美濃地方の昔話資料の用例調査から、モンデや《モン+断定辞ヤ・ジヤナデ》の使用頻度が共通語の「もので」に比して圧倒的に高いことを明らかにしている。

参考文献

- 岩崎卓(1996)「ノダカラの統語的特徴について」『小泉保先生古希記念論文集』大学書林
- 国立国語研究所編(1983, 1994)『方言文法全国地図』第1集, 第3集 大蔵省印刷局
- 小西いずみ(1999)「富山県における指定辞の分布と変遷」『日本語科学』5
- 小西いずみ(2000)「東京方言が他地域方言に与える影響—関西若年層によるダカラの受容を例として—」『日本語研究』20
- 小西いずみ(2004)「富山県方言の文法—地理的分布と記述研究の視点から—」中井精一・内山純蔵・高橋浩二編『日本海沿岸の地域特性とことば—富山県方言の過去・現在・未来』桂書房
- 佐竹久仁子(1984)「～もので/～ものの/～ものを」『日本語学』3-10
- 永野賢(1970)「「から」と「ので」とはどう違うか」『伝達論にもとづく日本語文法の研究』東京堂出版(初出は1952年)
- 彦坂佳宣(2005)「原因・理由表現の分布と歴史」『日本語科学』17
- 彦坂佳宣(2006)「降っているから、子供なので」『月刊言語』35-12
- 前田直子(2000)「現代日本語における原因・理由文の3分類」山田進・菊地康人・初山洋介編『日本語意味と文法の風景—国広哲弥教授古希記念論文集—』ひつじ書房
- 前田直子・日高水穂・小西いずみ・船木礼子(2006)「原因・理由表現」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック2』(平成14年度～平成17年度科学研究費補助金 基盤研究B 課題番号14310196 研究成果報告書)
- 三尾砂(1942)『話し言葉の文法(言葉遺篇)』帝国教育会出版部(復刻版 くろしお出版, 1995年)
- 山田敏弘(2002)「美濃方言の原因・理由表現」『岐阜大学教育学部研究報告 人文科学』51-1